

## 学会誌の創刊を祝して

高知女子大学学長  
成 田 十次郎



本学の看護学科が、我が国で最も早い4年制大学の看護学科であり、ほぼ半世紀にわたって看護学の研究と教育の領域で多くの業績を上げ、優れた人材を輩出してきた事実は、今では国内だけでなく、国際的にも専門家の間では周知のことであると思います。

平成10年度には、この伝統を持つ看護学科は看護学部となり、研究・教育体制を整備拡充することになりましたが、同時に念願の大学院研究科を新設し、本格的な研究体制を持つことになりました。

申すまでもなく、この学部昇格、とりわけ大学院設置は、その学問領域の構成と教員体制からみましても、本学の看護学科関係者の永年にわたる「新しい学問としての看護学」の確立に対する献身の結実であると言えます。

本学の看護学科の国内・国際的評価とこの度の学部昇格・大学院設置の実現を支えてきた大きな力の一つは、高知女子大学看護学会の存在と継続的な活動であり、私達は「高知女子大学看護学会集録」の中に関係者の看護学確立への熱い心情を見ることができます。

この「集録」が、平成10年を期して、「高知女子大学看護学会誌」に発展し、「看護の研究・学術の進歩を促し、看護の実践・教育・研究の質の向上に貢献し、社会から十分な評価を得られるような」学会誌を目指すことになりました。

学部昇格、大学院設置によって、本学の看護学が県民の関心を集め、更に国内・国際的にも専門家から一層注目を浴びることになると予想されますだけに、この学会誌の創刊はまことに意義深く、関係者のご炯眼に心から敬意を表します。

本学の看護学科創設期の教員や学生達は、新しい学問の形成に向かって筆舌に尽くせないご苦勞を重ね、今日の看護学を築いてこられたわけですが、社会の急速な変化に伴い、看護の社会的重要性は一段と増大し、複雑化し、看護の学問への人々の期待はますます大きく、切実なものとなってまいりました。

本学の看護学関係者の皆様、とりわけ若い先生方には、この学会誌を一つの拠点として、時代に即応した看護学の確立・発展に格段の努力を傾注されますことを強く期待いたしまして、創刊のお祝いの言葉といたします。